

わたしたちは生きている！ セタビの森の動物たち

世田谷美術館（砧公園） 2023.02.18～04.09



太古の昔から、人類は様々な動物たちと共存して生活を豊かにするためにその力をもらい、そして、わたしたちを生かすためにその命をいただき、時には家族としてまた友たちとして寄り添ってきた。

本展は、世田谷美術館のコレクションから「犬、猫、鳥、牛、馬、豹、鹿、みみずく、アルマジロなどの動物」を、古今東西のアーティストが様々な手法で表現した「約120点」の作品を紹介している。

稗田 一穂 《みみづく》 1951年 上図上
フェルナンディナン・デスノス 《鹿》 1925年 上図下

<展覧会の展示構成>

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 「プロローグ」 | セタビの森の動物たち～子供たちが描いた動物から |
| 「Ⅰ とりたちのうた」 | 森の奥へと誘う様々な鳥の作品 |
| 「Ⅱ 人とともに」 | 人の暮らしに身近な動物たち |
| 「Ⅲ 思いをのせて」 | あこがれの思いがこめられた動物たち |
| 「Ⅳ いのちの森」 | 生命そのもののテーマコーナー |
| 「Ⅴ ねこの園」 | とりわけ多く描かれている猫の作品 |
| 「Ⅵ 参加コーナー」 | みんなでつくるセタビのコーナー |



稲垣知雄 《箱入り猫》 1970年



宮本三郎 《乳牛》 1958年頃